

5 特別支援学校指導案



(帝釈峡)

特別支援学校 小学部 日常生活の指導

場 所	教室	授業形態	学級
小学部	第5・6学年 (3名)		
教科等	日常生活の指導		
単元・題材名	地震避難訓練をしよう		
本時の 具体的目標	地震避難訓練を通して、地震の際に教員の指示に従って、適切に避難することができる。		
前回の授業からの改善点	初回		

過程	学習過程	指導上の留意点 (○支援・☆評価・※留意点)	準備物
導入	1 あいさつをする。	○全員の姿勢が整うのを待ってからあいさつをする。	絵本
	2 絵本を見る。 「地震のえほん こんなときどうする。」	○絵本を注目しているか確認しながら読み進めるようにする。 ○特に注意してみてほしい場面では、指さしをしながら読む。	
展開	3 地震について知る。	○地震が来た時にとるべき行動を示したプレゼンテーション又はスライドを提示する。 ○児童がとるべき行動は特に注目させるようにする。	パソコン
	4 地震避難訓練の練習をする。 ・机の下に隠れる ・避難経路を歩く ・通して練習	○見通しをもつことができるように、地震発生時の一連の行動を絵カードにし、避難訓練の流れを説明する。 ○机の下に隠れる時の留意点を示しながら、一人ずつ確認をする。 ○避難経路を実際に歩く際に、並ぶ順番も示すようにする。 ○地震発生時から避難場所に移動するところまで通して練習する際には、教員もドアや窓を開ける。 ○Hが適切に行動できるように、教員が一人後ろから見守る。	手順カード
	個別の目標		
	教員の指示や絵カードを見て手順どおりに避難することができる。(K)		
	教員の指示や絵カードを見て手順どおりに避難することができる。(I)		
	教員と一緒に手順どおりに避難することができる。(H)	☆教員の指示に従って避難することができたか。	
まとめ	5 振り返りをする。	○絵カードを用いて、全校での避難訓練があることを伝える。	絵カード
	6 あいさつをする。	○全員の姿勢が整ってからあいさつをする。	

反省・気づき等 (児童生徒の変容を記入し、次時への改善に生かす。)

地震避難訓練では教員の指示をよく見て、落ち着いて行動することができた。絵カード等を使用し、言語化しながら、具体的な行動を明確にし、言語の定着を目指したい。

特別支援学校 中学部 日常生活の指導

場 所	教室	授業形態	学級
中学部 第2・3学年（5名）			
教科等	日常生活の指導		
単元・題材名	自然災害防災教育		
本時の 具体的目標	様々な災害発生時における危険について理解し、適切な行動をとることができる。		
	地震の恐ろしさや、地震から身を守るための正しい行動を知り、適切に避難することができる。		
前回の授業からの改善点	初回		

過程	学習過程	指導上の留意点 (○支援・☆評価・※留意点)	準備物
導入	1 あいさつをする。	○あいさつ時の姿勢に気をつける。	DVD ノートパソコン プロジェクター
展開	2 地震の映像を見て、地震の恐ろしさを知る。	※地震により建物の崩壊や火事が起こることの恐ろしさを実感しているか生徒の顔の表情に注目する。	
	3 映像を見た感想を発表する。	☆発表者の方を向き、友達の発表を聞くことができたか。	
まとめ	4 釜石市の奇跡の話を聞く。	※自分の命は自分で守らなければならないことを確認する。 ※地震についての知識の有無が命を左右したことを確認する。 ・ 情報収集の大切さ ・ 判断力の育成	
	5 学校で地震が起きた場合を想定し、地震が起きた時や揺れがおさまった後の行動を確認する。	○実際に地震が起きた時の対応（頭部の保護等）をT1が前に出て示す。 ○「押さない、走らない、しゃべらない、もどらない」を意識して避難させる。 ○誘導ロープを用いて校庭に避難する。 ☆注意事項を守って避難することができたか。	ヘルメット 誘導ロープ
	6 本時のふりかえり	○注意事項の復唱と誘導ロープ場所の確認を行う。	
	7 あいさつをする。		

個別の目標

- ・地震が起きた時やおさまった後に自分がしなければならないことがわかる（A, B）
- ・地震が起きた時に他の人と一緒に安全な場所に移動することができる（C, D, E）

反省・気づき等（児童生徒の変容を記入し、次時への改善に生かす。）

特別支援学校 高等部 日常生活の指導

場 所	教室	授業形態	学級
高等部 第1学年（8名）			
教科等	日常生活の指導		
単元・題材名	天気について（新聞やニュースに関心をもとう）		
本時の 具体的目標	自然災害や緊急事態等にどのように行動するのが適切なのかを考え、適切な行動を理解することができる。		
	5月6日に茨城県で起こった竜巻被害について知る。 竜巻の発生時に、どのように行動すれば良いか考え、適切な行動を理解することができる。		
前回の授業からの改善点	初回		

過程	学習過程	指導上の留意点 (○支援・☆評価・※留意点)	準備物
導入	1 あいさつをする。 2 本時の学習内容と目標を知る。		
展開	3 新聞を見ながら竜巻とは何かを知る。 4 竜巻がきたらどのように行動するべきか考える。 5 今後、竜巻や台風等の自然現象があった場合、どのように行動するか自分の意見を発表し合う。	※車等も巻き上げてしまう竜巻の威力などの恐ろしさを中心に伝える。 ○視覚的に理解しやすいように新聞に記載してある被害の状況を拡大鏡をとおしてプロジェクターで映し出す。 ○ヒントなどを与えながら考えさせるが基本的に見守り、自分の考えが言えるように必要に応じて支援する。	新聞 拡大鏡 プロジェクター
	個別の目標 全体…5月6日に茨城県で起こった竜巻被害について知り、このような場合どのように行動すれば良いかを考え、適切な行動を理解することができる。 A…竜巻に近づくのではなく、離れて避難することを理解することができる。 B…竜巻被害についての話を最後まで聞き、竜巻から離れて避難することを理解することができる。 C…竜巻被害について知り、竜巻から離れて避難することを理解することができる。 D…竜巻被害について知り、竜巻から離れて避難することを理解することができる。 E…竜巻被害について知り、竜巻から離れて避難することを理解することができる。 F…竜巻被害について知り、竜巻が起きた時の適切な行動について皆の前で発表することができる。 G…竜巻の恐ろしさを知り、竜巻から離れて避難することを理解することができる。 H…竜巻被害についての話を最後まで聞き、竜巻が起きた時の適切な行動について皆の前で発表することができる。		
まとめ	6 本時の振り返りをする。 7 次時の学習内容やこの後の流れを知る。 8 あいさつをする。		

反省・気づき等（児童生徒の変容を記入し、次時への改善に生かす-**。）・今回の授業では、新聞での情報が中心となったが、実際に水で渦をつくり、渦の特徴等について知るなどの体験的な活動があれば、良かった。